

## 行政調査報告書「まちづくり推進特別委員会」

平成 22 年 10 月 26 日（火）～28 日（木）

### ■岡山県倉敷市「中心市街地活性化基本計画について」

倉敷市の中心市街地には、倉敷美観地区エリア、倉敷中央病院を中心とするエリア、倉敷チボリ公園跡地エリア（平成 23 年に大型商業施設がオープン予定）の 3 つがあり、それらのエリアに囲まれるように駅前商店街が位置している。

倉敷市の中心市街地活性化基本計画では、倉敷の強みとして前述の 3 つのエリアが記載され、逆に弱みとして商店街への回遊性が明記されている。中心市街地を活性化するには、美観地区を訪れる観光客、病院への来院者、大型商業施設の買い物客をいかにしてまちなかへ誘導するかということに尽きるが、絶大な効果を上げる取り組みは、まだ見出せていないようである。



### ■熊本県熊本市「中心市街地活性化基本計画について」

熊本市の中心市街地は 4 つの地区に分けられ、熊本城地区には、熊本城を中心として多くの文化施設が立地しており、その歴史的価値や観光資源を活かしつつ、本丸御殿復元整備計画などが推進されている。この地区の課題としては、熊本城を訪れる年間 80 万人もの観光客の回遊性の確保が挙げられている。

また、熊本駅周辺地区は熊本の陸の玄関口、副都心として位置付けられ、市街地再開発事業などが推進されている。課題としては、都市機能のさらなる集積と市域内外への交通アクセスの向上が挙げられている。



### ■福岡県北九州市「中心市街地活性化基本計画（黒崎地区・まちなか居住の推進）について」

黒崎副都心地区は、歴史・観光資源を持たず、また、商圈の消費者を天神地区に奪われている。そうした特徴から、まちなか居住を推進し、定住人口の増加を目指し、共同住宅供給事業などの独自施策を実施している。

アーケード街では、イベントスペース、チャレンジショップ、休憩所兼案内所、アンテナショップなど、活性化のための様々な仕掛けを視察した。そこでは、高齢者に優しいシニアカーや電動自転車を無料で貸し出すなど、行政と商店街がタイアップして工夫している様子が伺えた。

また、文化・交流拠点として図書館、ホール、広場などの整備を進めており、安城市の中心市街地拠点整備計画に位置付けている施設と共通したものが多く、参考になった。

